

MMQCとは「もっと儲かる業務改善」で「業務改善は、人づくり、品質づくり」を実践する着実・前向き・具体的な活動です。

「理念」を悟る

右掲は、大阪府中小企業家同友会が経営指針セミナーとして行っているスケジュール表です。私が受けた時は1泊2日を3回の日程でしたが、現在は分散して開催しているようです。多くの受講者が「経営理念」を問われる試練から始まるものでした。参加者の多くは2代目3代目という方が多く「経営理念は？」と問われるとハタと困ってしまうのです。辞書で調べると理念は「1 ある物事についての、こうあるべきだという根本の考え。「憲法の理念を尊重する」2 哲学で、純粋に理性によって立てられる超経験的な最高の理想的概念。」とあるように煎じ詰める事が大切なのですが、これが難しいのです。

	内容
第1講	自己紹介と自社プロフィール作成
第2講	経営理念作成
第3講	長期ビジョンと外部環境分析
第4講	内部環境分析
第5講	方針策定と目標設定
第6講	数値計画とキャッシュフロー
第7講	行動計画と実践 終了式および決意表明・懇親会

ところが、ある方が「老人の未来を笑顔にする事だ」とシンプルに閃かれて、その後、社内で展開されて繁栄されているのです。介護業界の常識を超え「笑顔」とシンプルな思いなので、従業員の方々も腑に落ちやすいのです。こういう理念の気づき方があるのだと分かったのです。理念がシンプルに社員の腑に落ちる状況というのは「打てば響く」という状況であり、さらには、自発的に現場が即行動するので介護を受ける老人からも評判がよい事になり相乗効果となって繁栄されています。

一般的に「理念」を考える事は非常に難しい事ですが、その方が閃いたように「どのように他人の役に立ちそれがどのような効果を及ぼすか」という観点で考える事も重要な方法の一つと分かった訳です。私は、船井総研で元役員だった宮内先生から「心・観・学・術・体」という5段階を教わりましたが、学:どういふ分野で、術:自分が出来る事を、体:どのように実践するかというベースの上に、「心」・理念、「観」・行動指針を描く事で

「理念」を貫き「風土」化する

すが、例えば、当社は「観」は業務改善xシステム術で経営革新に貢献するコンサルティングであり、その実践の「心」として、社名の有限会社エー・エム・アイ、つまり、Advanced Management with Information「情報で先進的経営を行う」と意味づけ、さらに、AMIはフランス語で仲間であり、仲間としてお客様の業務改善に貢献するとしているのです。社名に「心」と「観」を込めているので、ブレる事はないのです。

ところが、多くの場合、社名は経営者名や地域名が使われるケースが多いのです。さらに、「産業」や「商事」と続く結果、ボヤけてしまうのです。創業当時の理念から時間が経過して、しかも何代も経営が引き継がれると時代の変化に適応する為に「改革」が必要になりますが、創業時の理念が時代に適応しづらくなっており、事業継承者もサラリーマン化している事もあって、新しい理念を見出す事が難しくなっているのです。

そのような状況の中で前述の介護関係の事業継承者の方が「老人の未来を笑顔にする事だ」と気付かれて理念にされ、シンプルに「心」と「観」を組み立てられたのです。問題は、「学・術・体」という現場に落とし込むことなのです。管理の基本通り幹部社員を巻き込んで現場毎に老人を笑顔にする企画を立てて老人の健康増進を図り、その結果、老人も元気になり、介護する職員も遣り甲斐が見えて定着性が高まったのです。

右掲は今年の年賀状の物ですが、経営革新を「情報」を軸に「システム」と「デザイン」を「術・体」としてお客様の希望に向かうという願いを込めています。シンプルな三位一体の構図ですが、これでお客様の経営革新の流れを「着実・前向き・具体的に」進めているのです。この構図は永遠ですが、「術・体」は時代と共に変化して行くものと思ひ、研鑽を積んで行きたいと思っています。



ワンポイント・アドバイス

今号は「理念」という大きな課題をシンプルに具現化して、それを現場で実践されている事例をご紹介しますでしたが、私はサラリーマン時代に大手の子会社に勤務した経験がありますが、ここには「理念」は皆無の状況であり、ここで長くいると自分が腐ると思ひ船井総研で自費で勉強し、その後独立起業して今日に至っています。悔いのない人生と自負しています。

